

クラブの運営業務を分担しよう

役割の明確化でスタッフの当事者意識が向上

～しまもとバンブークラブ(大阪府三島郡島本町)～

平成19年に、新・旧住民の交流場所の提供を目的に活動がスタートした「しまもとバンブークラブ」。約30名のメンバーで始まった設立委員会では、大所帯ならではの問題もありました。それらの問題を解決した“部会制”の存在とは？ また、スタッフの当事者意識を向上させた役割分担の経緯についてお話を伺いました。

🔑 キーポイント

- ★ 部会制を設け、一人ひとりに発言の場を作り出す
- ★ 効率化 < コミュニケーション
- ★ 偏りのない役割分担がクラブ発展につながる
- ★ 業務の明確化が当事者意識を高める

1 クラブ概要

住宅地開発が進んでいた島本町は昭和60年代ごろより、昔からその地域に住む住民と新しく移り住んできた新住民の間で、「どのようにして新しい地域コミュニティを形成するのか」が継続した課題となっていました。その対策の一環で取り込まれたのが「総合型クラブづくり＝まちづくり」とした町教育委員会主導の総合型クラブの設立です。

まず始めに、スポーツ関係者に限らずさまざまな背景を持つメンバーにより「町立体育館懇話会」が設立され、町唯一の体育施設である町立体育館の更なる有効活用方法を中心に、総合型クラブ設立を含む町のスポーツ振興について議論が交わされました。その後、日本体育協会の育成指定クラブ委託事業を受け、設立準備委員会を経て平成19年2月「しまもとバンブークラブ」が誕生しました。

クラブが活動する上での非常に重要な指針となっているキャッチフレーズは「温かいひとづくり、まちづくり、ふるさとづくり」です。設立当初から変わらない、この合言葉をもとに設立から8年を迎えた今、次のステージへ進むための法人化に向けた取り組みを会員、スタッフ、事務局が一丸となり進めています。

2 当事者意識を育てる部会制の存在

クラブは、懇話会、設立準備委員会を経て、約4年の歳月をかけてクラブ設立に至りました。30名超のメンバーでの会議は、毎回熱い議論が交わされる一方で、大所帯であるからこそ生まれた課題もありました。設立準備に向け盛り上がる中心メンバーと、そのほかのメンバーとの温度差が徐々に浮き彫りになっていったのです。これが後に部会制が確立するきっかけとなります。このときの関係者は当時は振り返り、中心のメンバー以外に疎外感を抱かせてしまう雰囲気は、確かに少なからずあったと話します。この状況を打開する仕組みとして確立したのが、コミュニケーション強化のための部会制です。大人数の準備委員会より人員削減して行われた部会では、一人ひとりに発言の場を作り出すことができました。また、その意見を準備委員会で共有することで各自の当事者意識も向上し、誰もが理念やビジョンを語れるクラブがスタートできたのです。

3 効率化に勝るコミュニケーションの重要性

クラブを語る上で重要なのが「会議回数」です。準備期間中に正式な会議を60回、それ以外にも地域で人が集えばクラブづくりについて語り合うなど、それぞれが意見を主張し、積極的なコミュニケーションが行われていました。しかし、設立から5年を迎え、クラブ事業が安定してきたころ、経験や慣れにともなった簡素

化がクラブの特長である「主張の場」に影を落とすようになります。

クラブ運営は、専門部会、運営委員会、三役・部会長会の3つの組織から構成されていました。専門部会で詳細な議論を行い、三役・部会長会にて部会間の調整、運営委員会で決定するという仕組みです。しかし、効率化や負担軽減のため、まず三役・部会長会議が削減されました。一時的に、全体の負担が減ったように感じましたが、部会間の調整の場がなくなったことで、それぞれの主張が次第に強くなり意見がまとまらない、という悪循環を生んでしまいました。

意見交換もなく、ただ時間が過ぎていく。そのような会議を経験すると“長時間の会議は無意味”“会議数が減ると負担も減る”と誤ってしまいます。しかし、クラブの過去を振り返ると、運営面が安定してもコミュニケーションの大切さに勝るものはなく「主張の場があることに意味がある」ことを実感します。その反省から、設立8年目の今、原点に戻り意思疎通の重要性や部会、作業内容の見直しに取り組んでいます。



約30名のメンバーで行われる運営委員会の様子

4 将来を見据えた役割分担を推進

クラブでは昨年、経験豊富な一部の人間に業務の負担が偏ってしまう現状を改善するため、作業内容の洗い出しから始め、半年間をかけて業務の見直しを行いました。業務効率を上げるため経験者に頼るのは仕方ない場合もありますが、たとえ時間がかかっても偏りのない役割分担の確立しておくことこそが将来的なクラブの発展につながると考えたからです。ここにも部会制を発足したときの“一人一人に役割と発言の場”というクラブのポリシーが影響しています。また、業務を明確にすることで、各担当者の当事者意識を高めるという効果もありました。時間がかかったとしても、各々が高いモチベーションでクラブに関わるのが「温かいひとづくり、まちづくり、ふるさとづくり」につながっている気がします。



フラダンスの発表会(写真左)や、体力測定会(写真右)など、さまざまな活動が行われている

5 今後の展望

現在クラブでは、法人化に向けたクラブの見つめ直しと将来のクラブ像を共有し積み上げる作業を行っています。設立時と同じくらいの時間をかけ「なぜ、法人格が必要か」「法人化することで、どうなるのか」を議論し進めています。多くの先行事例がある中でも常に我がクラブの理念やビジョンに立ち返り、地域のクラブを作り上げています。

(大阪府 クラブアドバイザー 祐末ひとみ)

クラブプロフィール

設 立：平成19年9月25日

地 域：大阪府三島郡島本町

運 営：会員数403名(平成26年7月現在)

予算規模：721万円(平成25年度)

連絡先：〒618-0022 大阪府三島郡島本町桜井2-25-1
島本町立第三小学校

TEL/FAX：075-202-4533

E-mail：mail@shimamotobamboo.net

HP：http://www.shimamotobamboo.net/